

人とペットが作る笑顔あふれる社会のために

マスターフーズ News Letter

October 2007

「ネコの感情表現」

犬と猫を比べると、犬の方がずっと感情表現が豊富で、猫の気持ちはわかりにくいと思っている人が多いようですが、猫もいろんな形でちゃんとメッセージを発しています。そういえば、『不思議の国のアリス』にも、あのチェシャ猫が、犬と猫の感情表現の違いに触れるくだりがあります。犬は怒っているときに唸り、嬉しいときに尻尾を振るが、自分は嬉しいときには唸り、怒っているときには尻尾を振るのだとアリスに教えます。そうして、尻尾を振ってチェシャ猫は自分が怒っていることを伝えようとした。彼の言うこの違いはその通り。そして、声や尻尾だけでなく、犬と猫の感情表現には様々な違いがあります。それを前提に、猫ならではの感情表現を良く知れば、猫とのコミュニケーションがより楽しく、その絆も強くなるはず。そこで、今回は猫の豊かな感情表現をいくつかご紹介します。

まばたき：猫を膝の上に乗せリラックスさせていると、ゆっくりまばたきをしたり、目を閉じたりすることがあります。これは、海外では「猫のキス」と呼ばれており、信頼を最大に表現しているのです。また、そんな時に猫が足の爪先を伸ばしながら、前足の裏でオーナーの膝などをもむようにすることがありますが、これも愛情や満足感の表現です。

手のひらでたたく：手は猫にとっても便利な感情表現の道具です。オーナーにかまって欲しいときには、爪や肉球でオーナーを軽くトントンとたたいて合図してきます。怒ったときに爪を立てて引っ掻くのはかなり違ってきます。

泣き声：「お帰り」と言うときと「お腹が空いた」と言うときで、微妙に「ニャー」の声を使い分けます。オーナーの帰宅時の猫の感情表現は、犬に比べるととても静かですが、彼らなりのいつぱいの喜びを表現しているはず。

尻尾：猫が旗のように尻尾を立ててこちらに近づいてくるときは、挨拶のサインです。特に、足元に纏わり付きながら尻尾でトントンと合図する場合は、歓迎を意図しています。

毛づくろい：毛づくろいは、身だしなみとしてされますが、時に軽蔑の感情表現に使われることがあります。例えば、犬に向かって、猫が安全な距離を置いて毛づくろいをする場合がこれに当てはまります。

上記以外にも、猫は意外に豊富な表現方法を持っています。そうした様々な感情表現を発見し、猫の気持ちや習性を理解していくことは、キャットオーナーならではの楽しみといえます。同時に、オーナー側にそうした理解や知識があつてこそ、猫もオーナー側の心情についてより理解するようになるのではないのでしょうか。ペットとの暮らしがより楽しく、互いに心癒されるものであるために、またペットの健康管理のためにも、ペットの感情や習性について、オーナー側が正しく理解し、知識を深めることはとても重要なことです。

マスターフーズ リミテッドは、製品や社会貢献活動を通して、人とペットが共に暮らす笑顔あふれる社会の実現を目指しています。このニュースレターは、マスターフーズが人とペットの共生をテーマにした研究や支援活動を目的に1997年に設立したリサーチセンターである非営利団体CAIRCとマスターフーズ・オーストラリアのコンパニオンアニマルに関わるリサーチセンターPIASと協力して発行しています。

お問い合わせ：マスターフーズ リミテッド 広報室 電話 03-5434-3311

2007年10月11日
マスターフーズ リミテッド